

第1回 第2次江別市観光振興計画策定委員会 協議事項

令和5年8月2日

【注】

- ① 本資料に掲載の情報は、2023年7月27日現在のものです。
- ② 本資料に掲載の情報は、今後、記載内容の修正、情報の更新を行う可能性がありますのであらかじめご了承ください。

江別市観光関連市場の概況

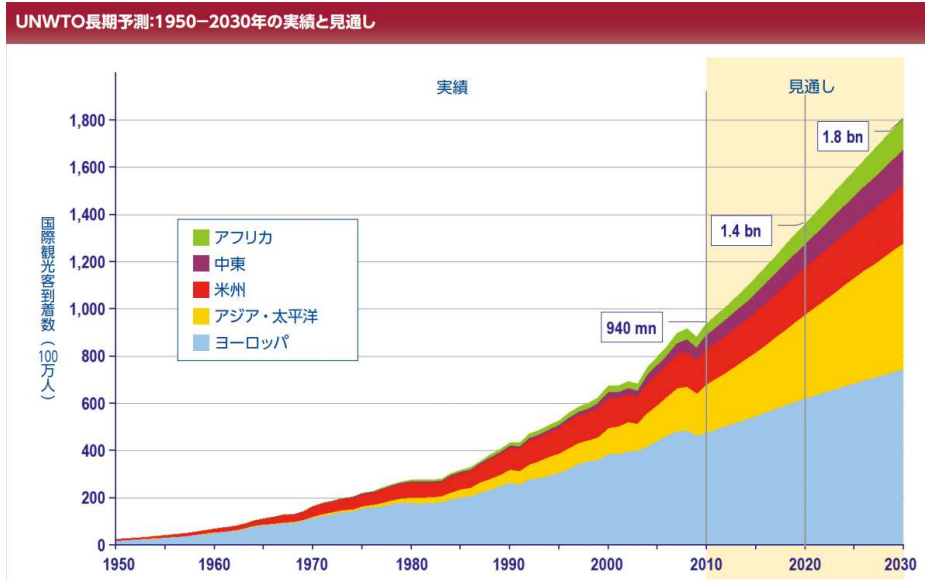
江別市観光関連市場の概況

世界の旅行市場動向

世界の旅行市場

国際観光客数は増加傾向

- UNWTO（国連世界観光機関）によるコロナ禍前の見通しでは、世界全体の国際観光客数は、平成22年（2010年）から令和12年（2030年）にかけて、世界的に年平均3.3%増加すると予測されています。
- 地域別では、アジア・太平洋地域の成長が著しく、令和12年（2030年）には5.3億人（年平均4.9%増加／世界全体の約3割）に到達する見込みです。

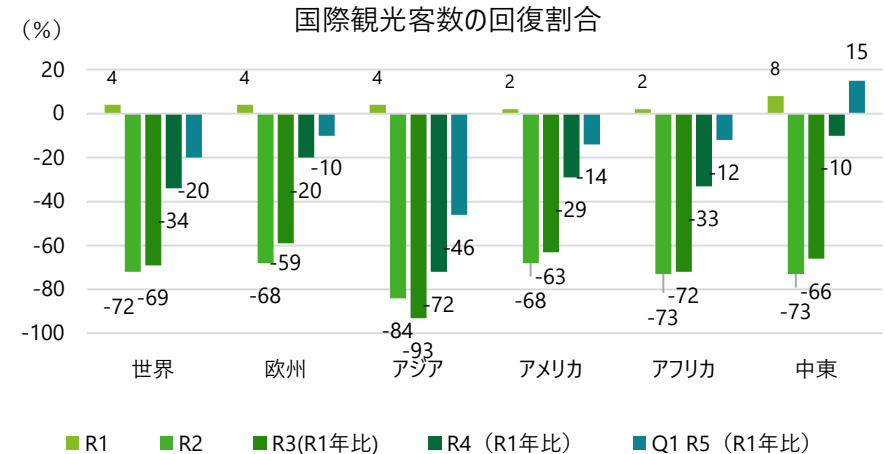


出典) UNWTO「Tourism Highlights, 2015 Edition」(当市にて日本語訳を付加)

コロナ禍の回復に係る調査

国際観光客数は2022年に8割回復

- 令和元年（2019年）を基準としたときの令和4年（2022年）の国際観光客数の回復割合は、世界では80%まで回復済みです。
- 令和元年（2019年）を基準としたときの令和5年（2023年）第一四半期の国際観光客数は、アジアで46%減少し、世界と比較して26%低く、コロナ禍からの回復が鈍重です。



出典) UNWTO「UNWTO World Tourism Barometer and Statistical Annex, May 2023」

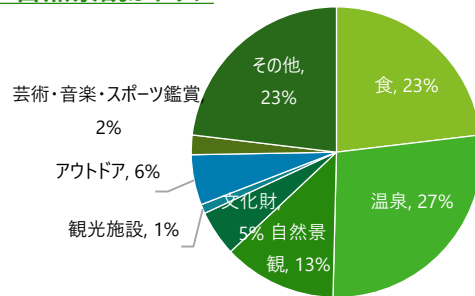
江別市観光関連市場の概況

国内の旅行市場動向

国内客及び道内客の道内旅行ニーズ調査

国内客の道内旅行ニーズは温泉・食・自然景観がトップ

- 国内客の北海道旅行の楽しみのトップは「温泉」で、次に「食」、「自然景観」が続き、この3つで全体の半分以上の割合を占めます。

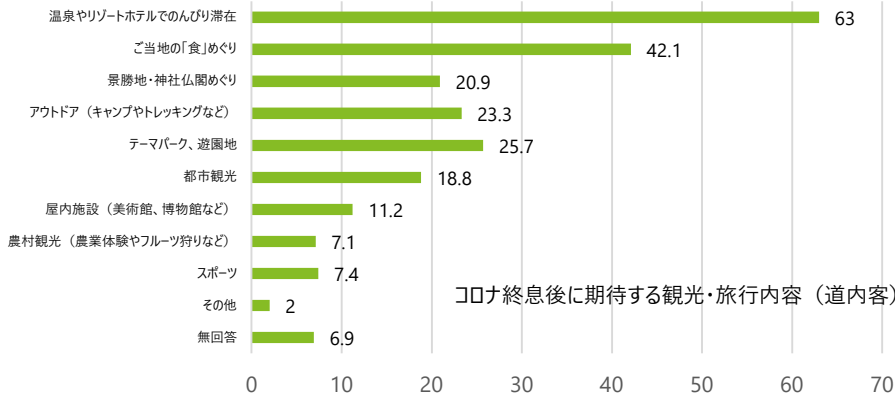


北海道旅行で最も楽しみにしていたこと（国内客）

出典：日本交通公社「旅行年報2022」

道内客の道内旅行ニーズは温泉・食・景勝地等がトップ

- 道内客の道内旅行の楽しみのトップは「温泉」で、次いで「食」、「景勝地等」の順に人気があり、国内客のニーズと近似しています。



コロナ終息後に期待する観光・旅行内容（道内客）

出典）令和3年度 北海道来訪者満足度調査報告書

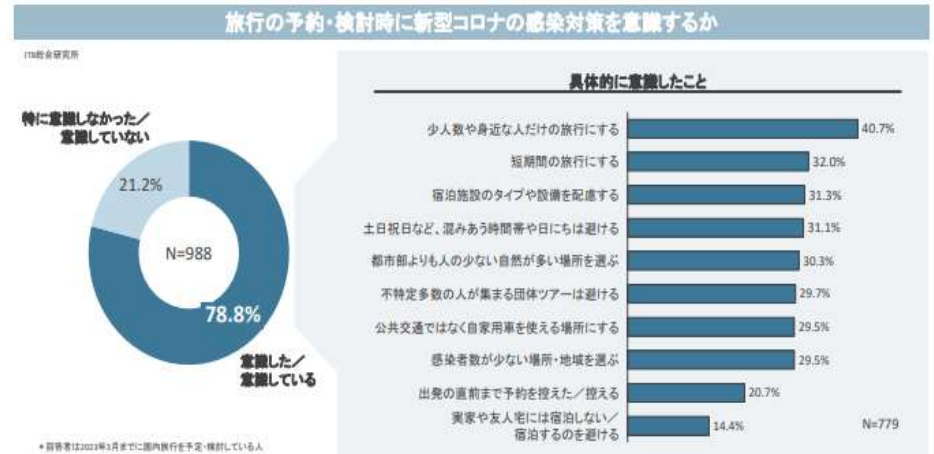
4 第1回第2次江別市観光振興計画検討委員会

コロナ禍後の旅行形態の嗜好変化

旅行形態が少人数、短期間に変化

- 新型コロナの感染予防対策について、旅行の予約・検討時に感染防止を「意識した/している」と回答した人は78.8%にのびります。
- 感染予防対策を「意識した/している」と回答した人のうち、40.7%が「少人数や身近な人だけの旅行にする」と回答し、32.0%が「短期間の旅行にする」と回答しました。

【意識調査】旅行の予約・検討時に新型コロナの感染対策を意識するか



出典）JTB・JTB総合研究所「新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化及び旅行再開に向けての意識調査2022」

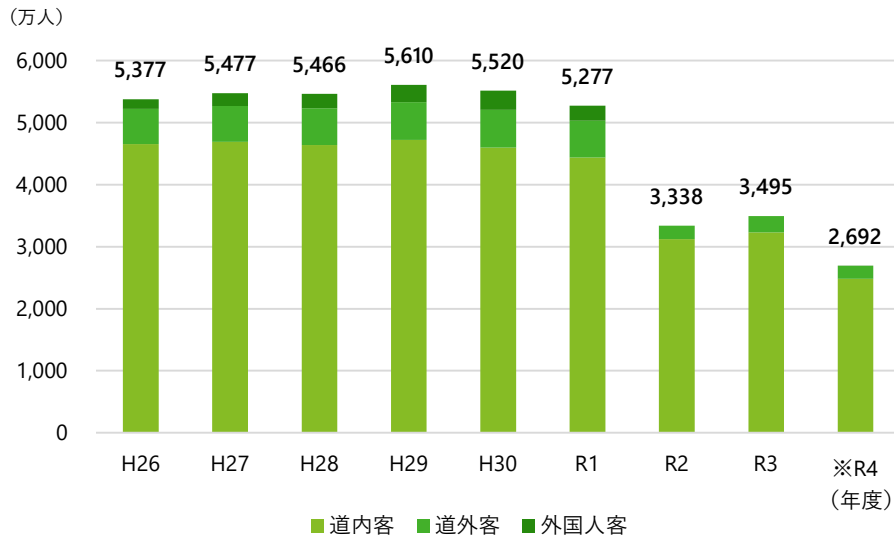
江別市観光関連市場の概況

道内の旅行市場動向

道内の旅行市場

コロナ禍における急減と回復見込み

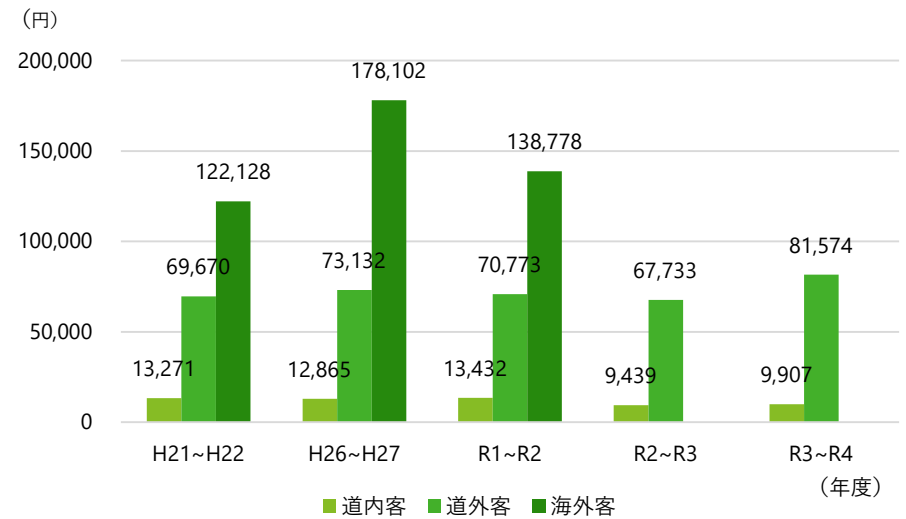
- 道内の観光入込客数は、平成29年度（2017年度）に5,610万人と過去最高の値を記録しましたが、その後コロナ禍までは、緩やかな減少傾向にありました。
- コロナ禍には令和2年度（2021年度）に3,338万人まで急減しています。
- コロナ禍以降、道内容客から順に回復しつつあります。



※令和4年度版（2022年度）は通年のデータがないため上期のみの数値を表示しています。

道外・海外客単価の減少、道内容客単価の増加

- コロナ禍において、観光消費額単価は、道外客は70,773円（3.3%減少）、海外客は138,778円（22%減少）と減少しています。
- 一方で、道内容客は13,432円と4.4%増加しました。



出典) 北海道経済観光局「北海道観光の現況2022」

出典) 北海道経済観光局「北海道観光入込客数調査報告書（平成26年度版~令和4年度版）」

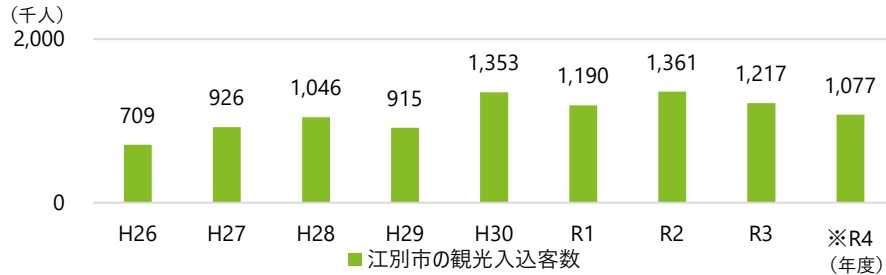
江別市観光関連市場の概況

江別市の旅行市場動向

江別市の観光入込客数の推移

総観光入込客数は増加傾向

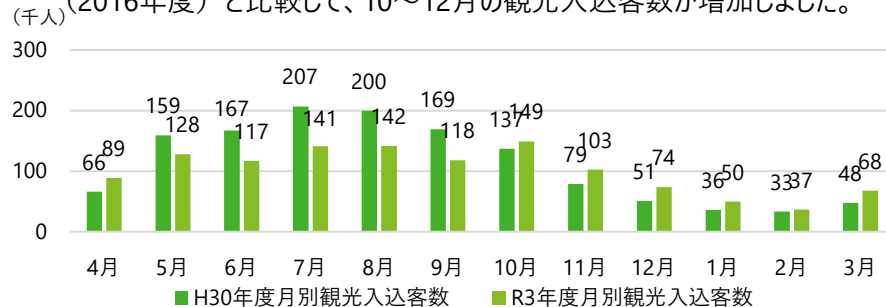
- 江別市の観光入込客数は増加傾向で、コロナ禍においても、堅調に入込客数を維持しています。



※令和4年度版（2022年度）は通年のデータがないため上期のみの数値を表示しました。

夏季と冬季での繁閑差

- 月別に見ると、夏季と冬季で繁閑差があります。
- 一方で、令和3年度（2021年度）の月別観光入込客数は、平成30年度（2016年度）と比較して、10～12月の観光入込客数が増加しました。

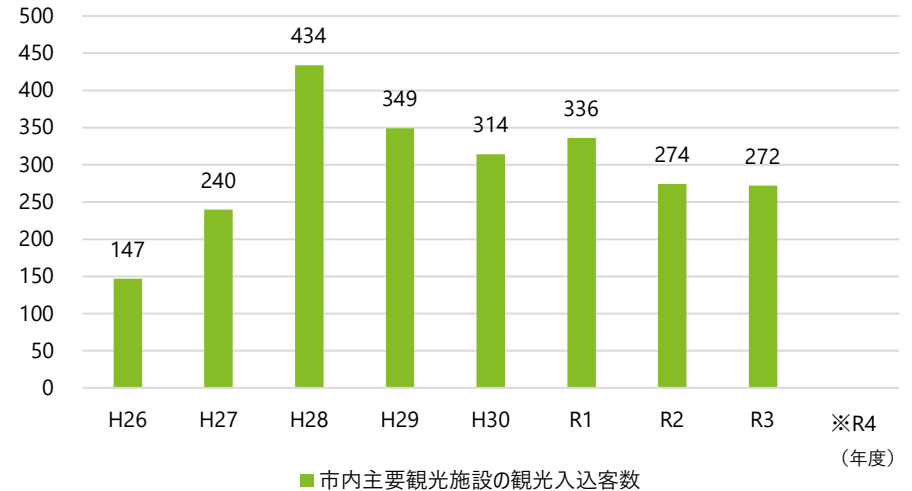


出典) 石狩振興局「[観光入込客数調査（平成26年度～令和4年度）](#)」

市内主要観光施設の観光入込客数の推移

H28年度に最高値を記録して以降減少傾向

- 平成28年度（2016年度）に最高値を記録して以降減少傾向です。
- 平成28年度（2016年度）にはEBRI（エブリ）が開業しており、新規集客効果がみられますが、その後は集客効果が減少し続けているものと予想されます。



※令和4年度（2022年度）はデータなし。

出典) 江別市「[第6次江別市総合計画の検証について](#)」

江別市観光関連市場の概況

江別市内の主要な観光資源

江別市における観光コンテンツの分類と一覧（現計画「江別市地域ブランド調査」）

カテゴリ		カテゴリ	
食と農	江別のパン	施設	美原大橋
	江別のスイーツ	イベント	スノーフェスティバル
	えぞ但馬牛		北海鳴子祭り
	江別小麦めん		えべつやきもの市
	江別農産物	自然	ノハナショウブ群生地
	大盛グルメ		しのつ河畔林
	ヤツメウナギ		石狩川
	ハルユタカなどの江別の小麦		夜空と星空
	江別の地酒	スポーツ・アクティビティ	江別のウィンタースポーツ
施設	町村ミルクガーデン		グリーンボール
	野幌森林公園	工芸体験	
	野幌総合運動公園	街歩き・自然散策	
	北海道立図書館	場所	江別のパワースポット
	江別ガラス工芸館		江別古墳群
	アースドリーム角山農場	特産	煉瓦
	EBRI	その他	大学・短大
	江別河川防災ステーション		えべちゅん
江別市セラミックアートセンター			

出典) [江別市「江別市観光振興計画」](#)より作成

江別市観光関連市場の課題

江別市観光関連市場の課題

江別市観光関連市場の現況整理

機会 Opportunities

- ① 日本を含めた世界でのコロナ禍後の旅行需要の回復
- ② 自然やアウトドア人気、FITの加速
- ③ 自然・体験などの新しい観光ニーズの高まり・細分化
- ④ マイクロツーリズムの本格化・日帰り客の増加・旅行ニーズの多様化
- ⑤ 旅行者比率のリバランスやワーケーション等の促進
- ⑥ (一社)えべつ観光協会自走化に向けた取組の開始
- ⑦ 江別市への道外客が増加傾向

脅威 Threats

- ① 日本人観光客の減少
- ② デジタル対応遅れによる観光客離れ
- ③ デジタル人材不足
- ④ 観光地間競争の激化
- ⑤ 賃金・人員不足や雇用の波動性等の産業構造的課題
- ⑥ 自然災害や気候変動
- ⑦ 冬季の積雪による交通障害

強み Strengths

- ① 札幌市に隣接し、公共交通機関や自動車でのアクセスが良い
- ② 小麦やブロッコリー等、農畜産物に関する魅力が豊富
- ③ れんがややきもの等、歴史・文化的な魅力が豊富
- ④ 野幌森林公園をはじめ、大小様々な公園が市内に多数所在
- ⑤ 市内に複数の食と農に関する施設が所在
- ⑥ 市内に4つの大学及び1つの短期大学が所在
- ⑦ 感染症等の外的リスクによる影響が少ない観光施設が所在

弱み Weaknesses

- ① 突出して秀でた魅力が少ない
- ② 通過型観光が主流
- ③ 観光スポットの点在
- ④ 市内観光スポットへ公共交通機関を使用してアクセスしづらい
- ⑤ 新規開業施設の開業効果が非持続的
- ⑥ 夏季と冬季での繁閑差がある
- ⑦ 市民・事業者の観光に対する意識が高くない

出所) 観光庁「[令和4年度観光白書](#)」、「[令和5年度観光白書](#)」、札幌市「[次期札幌市観光まちづくりプラン素案](#)」、江別市「[江別市観光振興計画](#)」より作成

江別市観光関連市場の課題

江別市観光関連市場の課題整理

江別市観光関連市場の現況分析及び、観光関連事業者へのヒアリングをもとに、江別市観光関連市場の問題点と課題を整理しました。

現有観光資源の活用と連携による、市内周遊の仕掛け作り

現有観光資源の有効活用

- 効果的PRの不足による市内外認知度の低さ
- 新規開業施設の集客効果減
- 観光資源同士の連携不足

市内周遊の促進

- 観光スポットが点在しており、周遊がしづらい
- 観光スポットへの公共交通機関でのアクセスが不便
- 観光スポット同士の連携不足

観光主体のニーズに即したコンテンツ提供による、観光事業の磨き上げ

物産から観光への昇華

- 中規模な道の駅相当施設が複数存在
- それぞれの役割分担と差別化が図れておらず、ターゲット層が明確でない

観光主体のニーズと提供コンテンツのマッチング

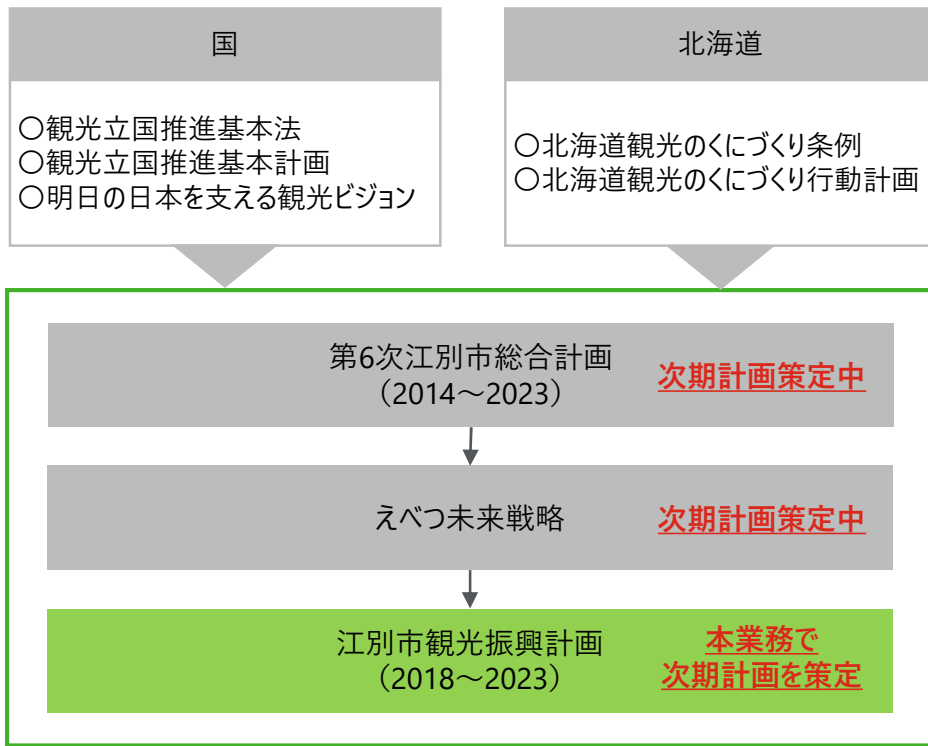
- 観光主体のニーズの把握不足
- 観光主体属性の把握不足
- PDCAサイクルによるコンテンツ構築の不足

協議事項

< 協議事項 >

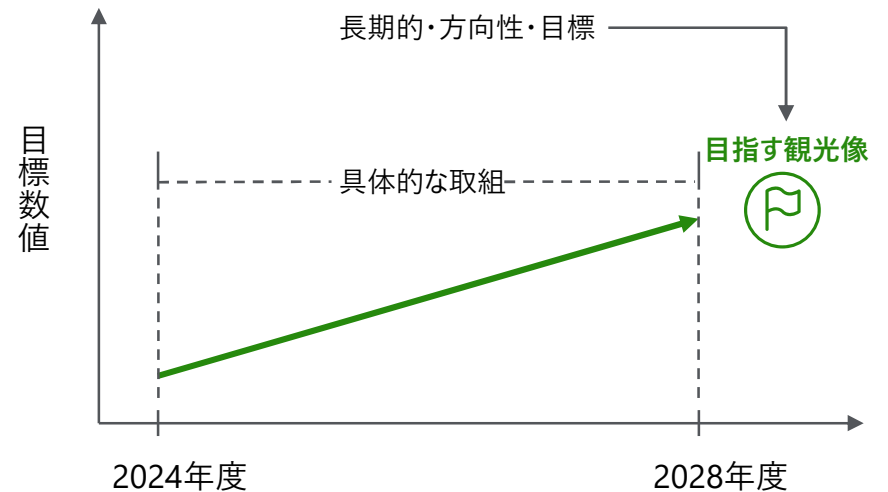
第2次江別市観光振興計画の概要

- 現計画は、江別市の長期的な総合計画である第6次江別市総合計画「えべつ未来づくりビジョン」で掲げる基本方針、及びその重点的・集中的施策である「えべつ未来戦略」に基づく観光分野での個別計画として位置づけられています。
- 次期計画の策定にあたっては、それら他計画との整合性を保ちつつ、内容を検討することが必要になります。



- 現計画は、長期的な展望に立ち、江別市が目指すべき観光の方向性と、計画期間中に実行予定の具体的な施策及び取組案で構成されています。
- 次期計画の構成は、現計画との整合性を保ちながら策定されます。
- 次期計画の計画期間は、令和6年度（2024年度）から令和10年度（2028年度）までの5年間になります。

【第2次江別市観光振興計画】



< 協議事項 >

「次期計画の目指す江別市の観光像」

観光像設定における検討事項

1. 観光像に関する論点

現観光振興計画との親和性

- ✓ 現計画の目指す観光像「日常の延長線上にあって、気軽にふらっと楽しめる」と同じ方向性にするかどうか

次期5年間で踏まえた観光関連市場の動向

- ✓ アフターコロナの旅行嗜好や市場ニーズといった視点を持ちつつ、次期5年間で目指す観光像を設定

2. 上位計画との整合性

市長ビジョン

- ✓ 江別市の魅力である「食」と「農」を最大限に活かした、日帰り周遊観光の充実

えべつ未来づくりビジョン<第7次江別市総合計画>

① 地域資源の有効活用

江別市固有の地域資源である「食」と「農」をはじめ、歴史あるれんがや、豊かな自然環境、歴史的遺産に加え、新たな観光資源の掘り起こしに取り組み、観光への有効活用を進めます。

② 誘客・周遊の促進

江別市が持つ魅力的な地域資源や観光・イベントの情報を発信するほか、観光関連団体との連携強化により、誘客と周遊を促進します。

③ 江別製品の認知度向上

豊かな自然環境の下で育まれた農畜産物を軸に、「食」の魅力を伝えるプロモーションを行い、江別製品の認知度向上を図ることにより、えべつの観光振興につなげます。

< 確認事項 >

「市民アンケート及び事業者ヒアリング対象について」

市民アンケート及び事業者ヒアリングの概要

1-1. 市民アンケート

- 目的

江別市観光関連市場や、現観光振興計画における取組案の課題を、観光主体の目線で洗い出すとともに、江別市の観光資源ブランディング戦略を検討するためのデータを取得する。

- 対象

現計画では、「日常の延長線上にあり、気軽に楽しめる」観光像を打ち出していることから、江別市及び周辺自治体（札幌市・小樽市・恵庭市・北広島市・石狩市）を調査対象とする。

2-1. 事業者ヒアリング

- 目的

現観光振興計画における取組案の課題や、今後の観光事業に対する要望、産学官の連携ニーズ等を事業者の目線で洗い出し、観光事業への事業者の積極的な参画を促進するためのデータを取得する。

- 対象

江別市内外からの誘客を促進するため、観光産業に接点のある江別市内の産官学各分野及び、札幌市に拠点を置く大手観光旅行代理店を調査対象とする。

1-2. 調査方法等

アンケート収集先	・江別市、札幌市、小樽市 ・恵庭市、北広島市、石狩市
アンケート対象者	・計600名程度 ・各市の回収数値目標は、人口比率等を加味して算出 ・性別や年齢層に偏りがないよう調整
アンケート手法	・Web上でのオンラインアンケート ・回答は選択式（一部自由記述式）
結果分析方法	・クロス集計 ・テキストマイニング

2-2. 調査方法等

ヒアリング先	・江別市内観光関連事業者 ・江別市内各産業の主要事業者 ・江別市内産官学関連団体 ・江別市外観光事業者
ヒアリング対象者	・計10社程度
ヒアリング手法	・対面でのヒアリングまたはオンラインヒアリング ・ヒアリング目的ごとに設問項目を統一
結果分析方法	・各産業や分野ごとの回答傾向を抽出し、縦断的・横断的に課題感やニーズを分析